うおぬま通信 第1回

保存版

［発行］新潟県　2015年1月 第1回「魚沼基幹病院の役割と地域医療再編」

魚沼地域医療再編について 3回シリーズでお届けします。

第1回　魚沼基幹病院の役割と地域医療再編
第2回　どう受診する？ 魚沼地域医療の輪
第3回　受診のための具体的な手引き

2015年6月から、
地域医療再編がスタートします。

魚沼地域医療の輪
地域全体で1つの病院

魚沼基幹病院の役割と 地域医療再編

医療の輪を作ることで、地域完結型医療を完成させます。

2015年6月、魚沼基幹病院の開院に伴い、魚沼地域の医療再編が本格的にスタートします。これまで魚沼地域では、県立病院や市立病院を中心に地域の診療所と連携して意欲的に地域医療に取り組んできましたが、救急時や高度医療の必要な方が長岡圏域の病院を利用されるケースも少なくありませんでした。魚沼基幹病院が開院することで、地域の中で医療を完結できる体制を目指していきます。

地域完結型医療を確立するためには、魚沼基幹病院とこれまで地域医療を支えてきた病院との役割分担と連携が必要です。現在、厚生労働省は大規模病院に患者が集中し、スムーズな診療や治療が受けられない状態を改善するため、入院医療・外来医療を含めた医療機関の機能分化・強化と連携を進めるべきであるとしています。

日頃の健康管理などはかかりつけの診療所や病院の医師が受け持ち、設備や体制の整った大規模な病院は急患や専門性の高い診療を受け持つという体制です。魚沼地域では、こうした国の方針もあり、地域完結型の医療体制作りを計画してきました。

地域の病院がばらばらに医療を提供していては、限られた人員、設備の中で十分な医療サービスを提供することは難しくなります。“魚沼地域医療の輪”を構築し、地域の皆さまに安心していただける医療を整えて行きます。

魚沼基幹病院
理事長
荒川 正昭

あらかわ　まさあき／新潟大学医学部 内科学第二講座教授、新潟大学医学部長、新潟大学長、新潟県福祉保健部 参与（～現在）、新潟県健康づくりスポーツ医科学センター長（～現在）、平成24年より現職。大学入試センター名誉教授・顧問（元理事長）、日本内科学会、日本腎臓学会、日本リウマチ学会、日本心療内科学会名誉会員など

2015年6月OPEN

Uonuma Kikan HOSPITAL

新潟大学地域医療教育センター
魚沼基幹病院

魚沼基幹病院は、地域全体の三次救急と高度医療を担います。

これまで地域で十分に対応できなかった三次救急、高度医療を地域の方々に提供し、
地域完結型医療を実現することが、この病院の最も重要な役割です。

魚沼基幹病院の役割は、三次救急と高度医療を担うことにあります。救急医療には一次、二次、三次と段階があり、三次救急は救命救急センターや高度救命救急センター、生命に関わる重大な疾患や外傷を持つ患者さんに対応する医療です。高度医療としては、がんや循環器病（心疾患や脳卒中等）などの病気に対しての専門性を高め、それらの病気の地域拠点となれる体制を整えていきます。さらに深刻な急性期患者の発症から回復期までの医療を担うことも重要な役割です。従来は長岡圏域の医療機関に頼ることもあった医療を魚沼基幹病院が受け持つことで、地域完結型医療体制を整えていきます。

これらの医療を実現するためには、医療機器などの充実もありますが、スタッフの能力も大きなポイントです。そのため、新潟大学医歯学総合病院と連携し、医師、看護師の育成・強化を図り、患者さんが安心して高度医療と充実した医療サービスを受けられる十分な体制を作ります。

魚沼基幹病院で治療を受け、急性期を過ぎた患者さんには、地域内の医療機関でリハビリやプライマリー・ケア（身近な医療機関で継続的な治療を行う）を受けていただくことになります。

魚沼地域の各医療機関が役割分担をすることで、スムーズな連携を図り、専門性を高め、高度な医療を提供し、より良い地域医療体制を構築していきます。

新潟大学地域医療教育センターについて

地域医療の充実、高度化はもちろん、地域医療に携わる医療人を育成し、魚沼地域の医師不足の解決にも貢献するため、新潟大学と連携し、地域医療教育センターを設置します。

魚沼基幹病院に医療人育成の舞台である地域医療教育センターを設けることで、研修医をはじめとした医療スタッフが集まる仕組みを作り、魚沼地域の医師を増やす効果が期待できます。

魚沼基幹病院
病院長
内山　聖

うちやま　まこと／新潟大学医学部小児科教授、新潟大学医学部長、新潟大学医歯学総合病院長、平成25年より現職。標準小児科学（医学書院）、今日の治療指針（医学書院）、家庭医学大全科（法研）などの編集、日本小児科学会、日本自律神経学会、日本糖尿病・妊娠学会、日本小児腎臓病学会などの理事・役員を歴任

■ 院長ブログ／ http://www.uonuma-kikan-hospital.jp/ ブログ / 病院長ブログ /

魚沼基幹病院の概要

診療科

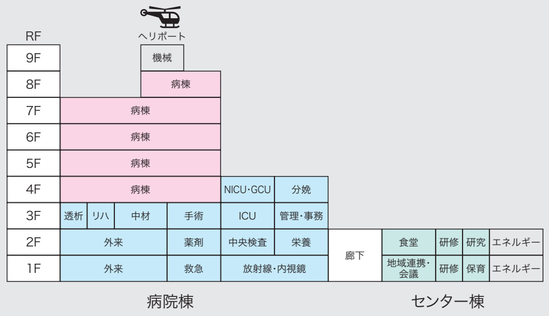
総合診療科
循環器内科
内分泌・代謝内科
血液内科
腎臓内科
リウマチ・膠原病科
呼吸器・感染症内科
消化器内科
神経内科
精神科
小児科
消化器外科・一般外科
心臓血管外科
呼吸器外科
整形外科
形成外科
脳神経外科
皮膚科
泌尿器科
眼科
耳鼻咽喉科
産婦人科
放射線治療科
放射線診断科
麻酔科
救急科
リハビリテーション科
矯正歯科
歯科口腔外科
病理診断科

主な医療機能

地域救命救急センター
　外傷センター
地域周産期母子医療センター
地域災害医療センター（予定）
地域がん診療連携拠点病院（予定）
地域医療支援病院（予定）

病床数 454 床（内訳）

一般病床　400 床（救命救急センター 14 床、NICU 6床、GCU 6床含む）
精神病床　50 床
感染症病床　4 床



お問い合わせ　新潟県福祉保健部 医務薬事課 新潟県新潟市中央区新光町4番地1　電話:025-280-5981

魚沼地域
医療の輪
地域全体で1つの病院

2015年6月から、公立病院再編 一覧表。

	~2015年5月31日	2015年6月1日~	2015年11月1日~	2016年4月~
魚沼基幹病院	地域全体の三次救急と高度医療を担います。	新設 病床数454床 総合診療科、内科、精神科、小児科、外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、産婦人科、歯科口腔外科、救命救急センター、地域周産期母子医療センター など		
小出病院	病床数383床→→→→→→→→	→90床 魚沼市立小出病院	内科、外科、整形外科、小児科、泌尿器科、産婦人科、眼科、訪問看護・リハビリステーション など	病床数134床 ※療養病床44床を増床。
堀之内病院	病床数80床→→→→→→→→50床（療養病床）2015年4月~	内科		
ゆきぐに大和病院	病床数199床		病床数40床 内科、精神科、和漢診療科、歯科、リハビリテーション科 など	
六日町病院	病床数199床→→→→→→→→	→20床 南魚沼市立六日町病院 6~10月は、外来と透析を中心に行います。	南魚沼市民病院 病床数140床 内科、精神科、小児科、外科、整形外科、歯科口腔外科、リハビリテーション科、訪問看護 など	

魚沼地域医療再編のポイント

それぞれの特徴を活かし 地域全体の医療機関が連携します。

魚沼地域の医療再編は、診療所や病院が役割を分担して、機能的に総合的に地域を支えていくことが目的です。

魚沼基幹病院は、救命救急センターと高度医療を必要とする患者さんへの医療サービスを提供します。再編後の魚沼市立小出病院や堀之内病院、ゆきぐに大和病院、南魚沼市民病院は、初期救急や、基幹病院で治療を受けた後、引き続きリハビリが必要な回復期・慢性期の患者さんの治療などを行います。

1つの病院で全ての症状に対応するのではなく、役割にあわせて、基幹病院を紹介したり、逆に基幹病院から他の医療機関を紹介することもあります。このように、地域の病院全体で連携をとりながら、治療を進めていきます。

医療再編の仕組みを支えるのは、かかりつけ医（ホームドクター）です。

「かかりつけ医（ホームドクター）」とは、日頃から健康管理のアドバイスや初期医療を受けられる「地域の診療所や病院の医師」のことです。病歴や体質などを把握している「かかりつけ医」がご近所にいることで、迅速、適切な診断が受けられると考えます。また、より高度な医療が必要と判断された場合には、速やかに専門病院を紹介し、スムーズに医療サービスを受けることができます。かかりつけ医は地域完結型医療のカギであり、患者さんにも安心して治療を受けていただけるシステムです。

魚沼基幹病院 受診のお知らせ

かかりつけ医の紹介状が有れば、スムーズに受診できます。

① 日頃の受診内容を把握するかかりつけ医の予約で受診がスムーズ。
② 重複検査が無い。
③ 初診時の負担金がかからない。

魚沼基幹病院は外来や入院機能も備えており、紹介状がなくても受診はできます。ただ、紹介状があることで、かかりつけ医から診療結果の情報を受け取ることができ、重複検査や重複治療を避けることができます。また、かかりつけ医から予約を入れてもらうことで、患者さんの待ち時間が少なく、スムーズに受診できるというメリットもあります。体に不調を感じたら、まずはかかりつけ医を受診しましょう。その上で症状に応じた病院を紹介してもらうことで、地域全体でより充実した医療サービスを提供できるようになります。

紹介状がない方でも受診はできますが、受診後、症状に応じて適切な医療機関を紹介させていただく場合があります。

紹介状がない場合（救急の場合、特定の診療科が近くにない場合など）でも、魚沼基幹病院を受診することはできますが、受診後は患者さんの症状に応じて適切な医療機関を紹介させていただくこともあります。その際は、紹介先の医療機関が魚沼基幹病院と連絡を取り合いながら診療に当たります。基幹病院だけで全てを完結するのではなく、地域の医療機関が協力して1人の患者さんを診ることで、「地域全体で一つの病院」として機能するように連携することが何より大切です。

※詳細は、次号（第2回）でご案内いたします。